

＜実習生の皆さんへ＞

実際に子どもたちと接する期待感と、うまく実習期間を過ごせるだろうかという不安感が同時にあるかも知れません。

具体的な実習内容については、実習が始まってから理解していきますが、実習が始まる前でも、次のようなことに取り組んでおくといよいでしょう。

①社会人としての意識をもつ

実習生であっても、幼児にとっては、幼児期に出会う大人ですので、挨拶や言葉遣い、服装などへの配慮が必要です。

また、疲れた表情や意欲のない動作なども、社会人としてあってはなりません。日頃から自覚して行動する積み重ねが大切です。

②やり通す気力と体力をもつ

保育中は、幼児の遊びの充実のために、常に感じ取り、判断し、行動することが求められます。

保育後も、環境整備や教材研究など、様々な仕事があります。

肉体的な疲労だけでなく、日頃と異なる思考を求められ、精神的な疲労も当然大きくなります。

実習は、単なる日頃の学生生活と異なる体験ではなく、真に自分が試される体験です。

実際に幼児と生活する喜びを感じると同時に、教師の仕事の厳しさの一端を痛感するでしょう。

何事もやり通す気力と体力を日頃から養い、実習を通して多くのことを学んでほしいと思います。